「新聞記者の仕事とは」（読売新聞姫路支局　早川保夫様）の講演を聞いて

この講演を聞く前は新聞記者は取材をして記事を書くだけだと思っていたけれどお話を聞いてデスクというチェックをしたりする人や海外にいる人ともコンタクトを取って毎日1つの記事をたくさんの取材をして書かれているなど様々なことを知ることができました。新聞の取材をする上で自分の興味のあることだけではなく色々な分野を取材していて、今私たちが学んでいる物理や化学など自分の興味のないこともある程度は知っておいた方がいいと聞いたのでこれからもがんばっていこうと思いました。

「新聞記者の仕事とは」（読売新聞姫路支局　早川保夫様）の講演を聞いて

記者にも色々なたんとうがあることをはじめて知りました。しかも、入ってすぐは新件たんとうだと聞いて意外だなと思いました。連載のものでは1ヶ月かけたり、はやいものだと30分、1時間しかかからないときすごいなと思いました。
情報を仕入れるとすぐ取材に行かないといけないのは本当に大変だろうなと思います。全国に1000人強くらいしかいないのは意外で、もっとたくさんいるものだと思っていました。記事を書くのと取材も両方するのはすごいなと思いました。

「新聞記者の仕事とは」（読売新聞姫路支局　早川保夫様）の講演を聞いて

新聞記者の仕事はおもしろいものではないと初めは思っていたけれど、講演を聞いていくうちに、歴史、物理、経済など色々な分野について色々な場所で取材をするおもしろそうな仕事だと感じました。また、新聞は文が難しいと思いこんであまり読む機会はなかったけれど、難しいのは単語であると知ったのでこれから読んでいきたいと思っています。

自分のやりたい仕事がなく、将来どうしようかとずっとなやんでいたけれど、今回の講演で意外な仕事がおもしろいと感じると分かったので、もっと色々な仕事について細かく調べてみようと思いました。

「新聞記者の仕事とは」（読売新聞姫路支局　早川保夫様）の講演を聞いて

中学生の一時期、あるドラマで新聞記者が権力に立ち向かうというところを見て、僕も新聞記者になりたいと思ったときがありました。でも、早川さんの話を聞いても分かるように記者は、毎日毎日新聞を出すためにすごい時間を使って調べて、書いていると知り、すごく大変な職業だと思いました。新聞1日分を作るのに、何百人、何千人もの人が働いて書き上げているものなのだから、大切にするべきだと思いました。これからは新聞も読んでいきたいと思いました。

「新聞記者の仕事とは」（読売新聞姫路支局　早川保夫様）の講演を聞いて

新聞記者をしていく上での早川さんの苦労や楽しさというものを感じました。僕は新聞記者の方々はそんなに人数が多くないと思っていたのですが数百人程度いると知ってとても驚きました。また、新聞を作る上での構成や書き方などが小説や、一般的なものとは違うなんて気づきませんでした。また早川さんが土砂災害などの現場で2日ほど張りこんだり、インタビューしたりすることなどから、新聞の記事をつくる熱意が伝わってきました。

「新聞記者の仕事とは」（読売新聞姫路支局　早川保夫様）の講演を聞いて

NIE講演会って何だろう？と思っていて、「教育に新聞」をという思想が今注目されているということを初めて知って、今回の講演会を通して新聞記者とはどういうものなのか。新聞の大切さはどういうものなのか。などたくさんの知識を得ることができました。新聞記者が何日もかけて取材をし、情報を集めることで日本、世界の情報が読者に伝わることや新聞を通して事件や事故、文化など歴史的な瞬間が生まれることなどとてもすばらしいことだなと感じました。普段、新聞を読まないけど、早川さんがおっしゃっていたようにもっと世界の情報に興味や関心をもち、新聞を読んでみようと思いました。

「新聞記者の仕事とは」（読売新聞姫路支局　早川保夫様）の講演を聞いて

早川さんの話を聞いて、新聞記者についてたくさんのことが分かりました。特に印象的だったのは自分が書いたことが世間で話題になったり、歴史的な瞬間に立ち会えることです。普通の社会人では経験できないようなことができる新聞記者はとてもおもしろいなと思いました。
時間があったら一通りでも新聞に目を通したいと思いました。

「新聞記者の仕事とは」（読売新聞姫路支局　早川保夫様）の講演を聞いて

ドラマなどでは新聞記者は少し悪者のようにされていたりするけど、現実ではいろいろな場所へ移動して何日間もかけて新聞を作っていて気合いのいる仕事だなと思いました。
芸能人や話題になっている人、スポーツ選手と仕事上で会うこともあると聞いて、夢があるなと思いました。
最後の質問コーナーで事件などは1時間くらいで仕上げたり、中には1か月以上調べるものもあったりと言っていて、速度の違いにおどろきました。

「新聞記者の仕事とは」（読売新聞姫路支局　早川保夫様）の講演を聞いて

新聞記者の仕事は、記事を書くだけではなくて実際に現場へ行き、話を聞くことをしていることをはじめて知りました。
新聞のあの量の文章を毎日作っているのは本当にすごいと思いました。文を書く力だけでなく情報に対する知識が必要で技術力がいると思いました。

「新聞記者の仕事とは」（読売新聞姫路支局　早川保夫様）の講演を聞いて

新聞は書くのに何日かかけてると思ってたけど、1時間で書いたり、何ヶ月も取材して書いたりと色々でおどろきました。何人もの人が新聞を作るのに携わっていると聞いて、今までも新聞の情報を信頼していたけど、もっと信頼できるな、と思いました。記者の数もすごく多くて、海外にもいると聞いてすごくおどろきました。お昼が14時が早い方と聞いて大変だな、と思ったけど、やりがいのある仕事なんだな、と思いました。

「新聞記者の仕事とは」（読売新聞姫路支局　早川保夫様）の講演を聞いて

新聞記者の方は思っていた以上に全国を忙しくしていて驚きました。
近畿の中でどこかにいったりとかではなく、あちこちに飛んで暮らしているのですごく
大変なお仕事だなと思いました。
話にあったように短い時間であれだけの内容の文章量の記事を書く
ので単語力だったり、表現方法が豊富にあるんだなと感じました。
私は人生で1回もちゃんと新聞を読んだことがないし、家でもとってないですが、機会があれば気になる話題だけでも読んでみたいと思います。

「新聞記者の仕事とは」（読売新聞姫路支局　早川保夫様）の講演を聞いて

新聞記者の仕事は、毎日起きていることを明確に分かりやすく記事にして伝えていて、誰が見ても見やすく作っているので、すごいと思ったのと、大変な仕事なのだなと思いました。私の家でも新聞を取っているので、その記事が何を伝えたいか、そのときの光景などを想像しながら読んでみようと思いました。勉強にも生かせられるようにしたいです。

「新聞記者の仕事とは」（読売新聞姫路支局　早川保夫様）の講演を聞いて

講演を聞いて、新聞をつくるのにそんなにたくさんの記者の人たちが関わっていると思っていなかったのでとても驚きました。何か大きな出来事が起こると、次の新聞にはその記事を載せないといけないと知って、限られた時間で完璧に仕上げるのはとても大変だし、指示する人の適切な判断がとても重要になってくるんだろうなと感じました。朝刊と夕刊を1日にどちらもつくるとなると、新聞の構成や書く内容も工夫していかないといけないので、とてもしんどい作業ではないかと思いました。普段家に届く新聞を読むことがないので、これを機に目を通してみたいです。

「新聞記者の仕事とは」（読売新聞姫路支局　早川保夫様）の講演を聞いて

毎日新聞のように毎日記事を書くのは大変な仕事だろうなとも思ったし、文章を書いたり情報をまとめるのが好きな人にはピッタリな仕事だと思った。どんな記事にも思い出があるのを見て、早川さんは凄く自分の仕事が好きなんだなと思った。家で新聞をとっているけれど見ているのは祖父だけだったので、自分も見てみようと思った。特に教科書に載っている内容が実は違うかもしれないなどの記事は、興味の湧く内容だったのでもし真相がハッキリしたら読んでみようと思った。

「新聞記者の仕事とは」（読売新聞姫路支局　早川保夫様）の講演を聞いて

新聞記者は大変だと思いました。十数回にも及ぶ転勤や深夜労働、休日出勤など、自分には考えるだけで耐えられない職業でした。
自分は中学生までは新聞を読んでいたけれど、高校生になってからは時間がなくて新聞を読まなくなったので、新聞への関心が薄くなってきたなかで、この講演を受けてやっぱり新聞っておもしろいことがたくさん書いているなとかいった新聞のよさを再確認できる機会になったと思います。
しばらくは新聞を読めないと思いますが、ネットニュースをさっと読めるときに読みたいです。

「新聞記者の仕事とは」（読売新聞姫路支局　早川保夫様）の講演を聞いて

僕は自分で文章を作り出すのは苦手なので、新聞記者は難しそうだなと思いました。事件などは、すぐに取材をして翌日には出せるようにしないといけないので、書くのに1日もないというのに驚きました。また完成させるのに1か月くらいかかる記事もあるらしいので、速いだけじゃないんだなと思いました。

「新聞記者の仕事とは」（読売新聞姫路支局　早川保夫様）の講演を聞いて

講演を聞いて、学びは、学生の時期だけのものだと思っていましたが、大人になってもつながっていて、大人になってから発見する新しい学びというものもあるのだなということが分かりました。今、勉強していることは、本当に必要なのかとか、大人になってから使うことなんてあるのだろうかと思っていましたが、今の学習が、大人になった時の学びの手助けになるのだなということが分かりました。また、今は毎日の生活が忙しくて、新聞を読もうと思ったことがなかったのですが、今のことを知ることはとても大切だと分かったので、余裕がある時にでも読んでみたいと思いました。

新聞記者の仕事とは」（読売新聞姫路支局　早川保夫様）の講演を聞いて

今まで新聞記者の仕事を知らなかったので、とても忙しいと知って驚きました。また、関東・関西いろいろなところを行きまして、取材をしなければならないのはとても大変だと思いました。家では新聞をとっておらず、あまり読むことがなかったけど、これから、学校で、読みたいなと思います。また、自分が好きなこと以外にも苦手なことなど、いろいろなことにチャレンジしていきたいです。

新聞記者の仕事とは」（読売新聞姫路支局　早川保夫様）の講演を聞いて

新聞は毎日とっているからいつでも見れる状況なのにあまり読んだことがない。自分の興味のありそうな記事があれば新聞を読んでいるお父さんに教えてもらう。ニュースは基本テレビで見ているから大体の事は知ってるから見ないのかなと思ってた。でも話を聞いてまったく同じ記事でも記者が違ってたりすると内容が少し変わっていたり使っている写真とかが違うから読み比べるのも新聞を読む楽しみにするのもありなんじゃないかと思った。今からでも少しずつ新聞に慣れていこうと思った。

「新聞記者の仕事とは」（読売新聞姫路支局　早川保夫様）の講演を聞いて

今日の話を聞いて，新聞をもっと読もうと思った。家では，神戸新聞をとっているが，じっくり読んでいるのは母だけで，私は週に一度ほどしか読んでいない。読む気はあっても分厚い新聞を手にとると，つかれてしまう。まずは，一面からでも読んで習慣にしていこうと思う。また，大学入試の小論文でも時事問題は必要になってくるときいて，より読もうと思った。